

## ～眼科（屈折・眼位）検査のご案内～

3歳児健康診査では、弱視・斜視の早期発見のため、フォトスクリーナーによる検査を行います。

### 屈折・眼位検査はなぜ必要？

視覚は、6～8歳くらいまでに正しく発達しなければ、弱視（メガネやコンタクトをしても視力がでないこと）になってしまいます。

弱視や斜視（片目の視線がずれていること）は早期発見、早期治療がとても大切ですが、幼児は見えにくさを自覚しないことが多く、家族も気づきません。

屈折・眼位検査は、弱視、斜視、眼疾患の早期発見に役立ちます。

### フォトスクリーナーによる屈折・眼位検査とは？

目のピントが合うために必要な度数（屈折）を調べる検査です。

屈折は、正視・近視・遠視・乱視に分かれます。

視力検査だけでは目の異常を見逃してしまう恐れがありますが、この検査で視力の発達を妨げる原因がわかることがあり、異常の見逃しを減らすことができます。

フォトスクリーナーでは、角度の大きな斜視も調べることができます。ただし、角度の小さな斜視や間欠性斜視は調べることができません。

### 屈折・眼位検査で異常を指摘されたら

速やかに眼科を受診して精密検査を受けましょう。精密検査では、視力・屈折・眼位・角膜・水晶体・眼底などの異常がないかを調べます。

子どもの目の病気は本人が不自由を訴えないことが多く、治療が手遅れになってしまう恐れがあります。

見え方に問題がないようでも、必ず眼科を受診しましょう。

#### <検査の様子>



数秒で両目の検査が  
終了します

# 【子どもの弱視見逃しに気を付けて！】



知っていますか？弱視の子どもは、50人に1人  
治療にはタイムリミットがあります！

でも、健診で見逃されてしまうんです

1ヶ月	6ヶ月	1歳	3歳	8歳
視力 0.02	0.06	0.2	0.6~0.9	

子どもの視力は3歳までに急速に発達し

1ヶ月	6ヶ月	1歳	3歳	8歳
視力 0.02	0.06	0.2	0.6~0.9	

6歳から8歳頃には完成してしまいます

自覚症状のなさ  
見逃しの原因は自覚症状のなさや検査の難しさ

3歳児健診  
しかし、弱視は早期発見すれば治療できます

すべての子どもへ、正しい眼科健診を

**危険！早く治療すれば回復したのに…  
子どもの弱視見逃しに気を付けて！**

監修：日本眼科医会  
協力：東京慈恵会医科大学  
先端医療情報技術研究部  
慈恵医大/©Crevo